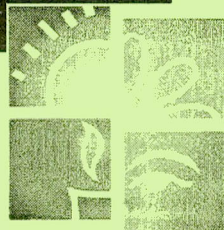


女性国際戦犯法廷
2000



「現代の紛争下の女性に対する犯罪」国際公聴会

世界各地の紛争や軍事基地暴力の被害者本人の証言と専門家による解説・行動提起を聞く

12月11日(月) 午前9時30分 - 午後6時(9時開場・9時30分受付終了) 参加費 2000円

九段会館ホール 地下鉄東西線・新宿線・半蔵門線九段下駅から徒歩1分/JR 飯田橋

20世紀の最後の10年に、「慰安婦」とされた女性が50年間の沈黙を破ってアジア各地で声をあげたとき、世界中では多く女性たちが戦争や紛争下で性暴力の被害に苦しんでいました。そこで女性たちは国際的に連帯して立ち上がり、不処罰の循環を断ち切ることを求めました。

国際公聴会では、世界各地で最近あるいは現在の紛争や軍事化の下での、女性や子供に対する暴力の実態について、12人の被害女性(サバイバー)が証言します。また、専門家や活動家による分析や解説も行われます。



どのように暴力が繰り返され、エスカレートしてきたかを表すため、多くの紛争に共通して見られる以下のテーマを明らかにします。

- 極限主義—国家主義や民族、宗教、人種の排他主義、多数派主義など
 - 軍事主義—侵略、国家抑制、軍隊や武装集団の駐屯、強国の外交政策など
 - 資源をめぐる紛争や暴力—土地、領土、水や天然資源使用する権利の略奪
 - 紛争後の暴力、および平和と再建の不在がもたらす影響—平和合意に調印するなり、いわゆる紛争解決後の再建期の段階で女性には阻害され、受けた被害と和解する手段からも遮断され、更なる暴力の対象とされる。
- 公聴会では痛みや苦しみを分かち合うと同時に、真の平和と正義、不処罰の循環の断ち切りを求めて止むことのない、女性たちの戦いや行動に焦点があてられます。武力紛争について国連人権委員会に報告を提出する「女性への暴力」特別報告者ラディカ・クマラスワミさんも参加されます。

主催 ジェンダー正義を求める女性コーカス(ニューヨーク)

共催 「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク(日本)
女性の人権アジアセンター(フィリピン)

連絡先 女性コーカス仮事務所

江東区潮見 2-10-10 TEL/FAX: 03-5348-6330 E-mail: mihotsujii@dream.com

ボランティアと宣伝協力のお願い: 当日とそれまでの準備にボランティアとしてかかわってくださる方、チラシの配布に協力することのできる方は、ぜひご連絡ください。よろしくお願いします。

プログラム&ゲスト*

- 9:30-10:00 主催者挨拶
「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク
女性の人権アジアセンター(フィリピン)
ジェンダー正義を求める女性コーカス(ニューヨーク)
- 10:00-10:30 公聴会の紹介—司会
シャーロット・パンチ(Women's Center for Global Leadership 米国)
パヒダ・ナイナール(主催団体代表・米国/インド)
- 10:30-12:45 証言者の発表
沖縄、ルワンダ、東チモール、グアテマラ・米
国中央情報局、ベトナム、ブルundi、コンボ
午前9時の部の分析と解説
高里鈴代(基地・軍隊を許さない行動する
女たちの会共同代表)
- 12:45-1:15 午前の部まとめ—司会
- 1:15-1:45 昼食
- 1:45-2:45 午後の部の紹介—司会
- 2:45-3:00 証言者の発表
バングラデシュ、グアテマラ、チアパス(メキシ
コ先住民族)、アルジェリア、パレスチナ、ビル
マ、アフガニスタン、ソマリア、シエラ・レオネ
- 3:00-4:45 午後の部の分析と解説
ハミダ・ホセイン(「モスLEM法下の女性」ネットワー
ク)
- 4:45-5:15 閉会の辞
ラディカ・クマラスワミ
「女性に対する暴力」国連特別報告官
- 5:15-5:45 閉会セレモニー
サバイバー—司会
- 5:45-6:00

証言者や証言内容は司会者によって紹介されます。証言の合間には、テーマ的に関連したスライドショーやビデオ上映が行われます。

*多少変更することがあります

国際公聴会 証言概要の紹介

シエラ・レオネ

夫に先立たれ、5人の子をかかえた42歳のベツィー・グボヌ・コッカーさんは、1999年12月に反乱軍が町を襲った時に子ども達と一緒に茂みに隠れ、3日間何も食べずにそこで過ごしました。4日目に、反乱指導者フォデイ・サンコに忠誠を誓った10名の覆面男に強かんされ、彼女は子ども達からひきはなされ出血した状態のまま置き去りにされました。

ベトナム

トウロン・ティ・ノック・ラムさんは1941年に11人中3番目の子として生まれ22歳で結婚しました。ベトナム戦争中、米軍が最も頻繁に枯葉剤を使用していた時期に夫が医師官として勤務していたため、夫はダイオキシン中毒による数々の健康障害を起こし、彼女が出産した4人の子のうち、幼年期を超えて生き残ったのは1人だけでした。その息子 ハーソン・パムダン・ラムさん現31歳も幼年期から精神的に成長できない状態にあります。

バングラディッシュ

パキスタンからバンクラディッシュが独立戦争を起こした当時、1971年、ファードウシー・プリヨバーシーニさんは22歳で南バングラディッシュの黄麻製粉場の受付として働いていました。彼女は一人で母親と3人の子どもを養っていました。この戦争中彼女は2度強かんされ、幾度も両サイドの軍の男たちから性暴力の被害にあいました。

カンボジア

フロール・シルベストレさん34歳は軍隊とゲリラ軍が激しい紛争を繰り返しているバランカ近くの村から来ています。彼女の一家は何度も家から強制退去させられ、4名の家族が政府あるいはゲリラの手によって失踪しています。

メキシコ

サラ・サントス・ゴメスさんはチアパスの小さな村に住む25歳の先住民です。彼女はツェルタル語という原住民族語の1つを使用するため、スペイン語をあまり理解できません。1999年8月8日に国立病院で出産したときに、医師から医学的に必要だからと偽られて帝王切開をしました。その後、激しい健康障害の為、修道女によって営まれている病院に行った際に国立病院では不妊手術をされていたことを発見しました。

沖縄

稲嶺貴子(仮名)さんは高校1年生の時に3人の米軍隊員に強かんされましたが、侵害と恥を強いられることを恐れるあまり、警察に届け出ませんでした。彼女は高校卒業後、苦しい体験を思い出させる全てのものから逃れる為、沖縄から本土へ移住しました。

ビルマ

ナウ・ダー・ムさん41歳は現在難民キャンプで生活しています。1999年7月に政府軍(国家平和発展協議会)兵士60名が彼女の家を略奪し夫を連れ去り、彼女と子どもたちをひきさいて別々に森へ連れ去り、食料もない状態で森に置き去りにされました。その後、同じ村の人を見つけたときに、夫が拷問され、身体を切断された後に殺害されたことをききました。ようやく難民キャンプにたどり着きましたが、国連難民高等弁務官事務所から難民登録されるまで3ヶ月待たなければならませんでした。

アルジェリア

夫が暗殺された1年後、Xさんは原理主義のテロリスト集団に加盟して間もない近隣の男に率いられた20名の武装した男達に誘拐されました。彼女が連れ去られたキャンプには近隣の若者達も拉致されており、彼女の息子たちは拷問に合いました。彼女は手足を縛られ、15時間蹴られ殴られた後に強かんされ、“おまえは辱められるべきだ”と叫ばれました。数日後彼女は開放されましたが、彼女を拷問し強かんした男達は大統領によって恩赦を受けました。

